

豊後水道

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
愛媛県	<p>由良神社裸まつり・和舟競漕（宇和島市）</p> <p>津島町下灘公民館 TEL：0895-35-0001</p> 	<p>宇和島市津島町の祭りの幕開けとなる由良神社裸まつり（和舟競漕）。下灘地区の伝統行事として、約170年の歴史があり、毎年7月に開催される。10丁櫓の木造舟2隻に上半身裸の若衆が約30名ずつ乗り込み、海の豊漁を祈願する行事。上半身裸の男たちが櫓を漕ぐため、「裸まつり」といわれる。</p>
	<p>十日えびす（八幡浜市）</p> <p>八幡浜魚市場協議会</p>  <p>URL:http://www.minatto.net/archives/1895</p>	<p>八幡浜大神宮内（八幡浜市神宮前）の恵比須神社に奉ってあるえびす像を、魚市場内につくった祭壇に移して神事を行い、その後像を三方に乗せ、当日の朝一番早く帰港した漁船の上へと持ち運ぶ。そして、神官が像を縁起笹で飾った船首から海中へと投げ入れると、おはらいを受けて待ち構えていた漁船員が続いて海へ飛び込み、像を拾い上げる。海水で清められた像が再び三方の上へ戻されると、めでたく終了となる。毎年旧暦の1月10日に開催される。</p> <p>このえびす像は、今から約170年前の天保年間（江戸時代）に八幡浜市沖の佐島に流れ着いているのを山伏が見つけ、えびす堂を建立して祀ったと伝えられている。</p> <p>十日えびすが現在の形になったのは、昭和37年（1962年）で、それまでは、海岸で神事だけを行っていた。像を海から拾い上げることが「海の幸を拾う」ことに繋がり、豊漁に結びつくとされる。また、像がもともと海を漂流していたことから、海を恋しがっている像を年に一度海に戻すといういわれもある。「航行中の安全」と「豊漁」を祈願して行われる。</p>
	<p>柏崎岩神社漁止祭り（愛南町）</p> <p>愛南町柏崎地域</p> 	<p>旧内海村（現愛南町）柏崎には寛永3年（1706年）創建とされる地区の氏神「岩神社」がある。今からおよそ200年前の享和3年（1803年）柏崎浦の網元久之熊のカツオ一本釣り船が由良岬沖合16キロメートルの「鮪子瀬」付近に出漁中に鯨の群れに出会った。鯨が船の近くで交互に跳ね上がり、海は大きな波とうねりで船が転覆しそうになった。</p> <p>カツオ船に乗り組んでいた漁師たちは氏神である岩神社に一心に祈った。8月12日には絶対に漁に出ないから無事に帰らせてほしいと願いをかけた。すると不思議なことに波は穏やかになって無事に帰ることが出来た。それ以来柏崎の漁師たちは8月12日にはどんなことがあっても漁に出ないことを申し合わせ、氏神さまへのお礼に麻糸を紡いで織り上げ</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
愛媛県		<p>た幟旗を奉納した。この幟旗は今でも現存する。</p> <p>今では柏崎地区全体の祭りとして旧暦 8 月 12 日に開催されている。岩神社での神事後、大人が担ぐ樽神輿と子供たちが担ぐ子供神輿とが神社の急な石段を下りて地区内を練り歩く。もちまきのあと漁船所有者のくじ引きがあり、岩神社、由良神社、竜王神社の三本でくじにあたるとそれぞれの神社名を書いた旗とお神酒が渡され、その旗を船首に立てて海上パレードの先頭にたてる。おまけに同僚の仲間からは着の身着のまま海中に投げ込まれる。これはくじにあたったものを祝福し、身を清めて海の安全と村の繁栄を願うという意味合いのものである。</p>
	<p>トントコ踊り（宇和島市）</p> <p>※宇和島市指定無形民俗文化財</p> <p>トントコ踊り保存会</p> 	<p>宇和海地区の蔭淵には、「トントコ踊り」とよばれる盆踊りがある。江戸時代に旱天・不漁・疫病がうちつづいたとき、昔、落鼻で遭難した平家の落人の祟りによるものと考え、正徳元年（1711年）に、その落人の供養塔を落鼻に建てた。その時にはじまった供養の踊りといわれている。</p> <p>8月13日の夜、2艘の舳い船を踊りの舞台として、蔭淵七浦を回漕しつつ、各浦の新盆を迎えた新仏と、各地区の神仏にささげられる。新盆の家は、酒一升と肴を献じて新仏の供養に踊ってもらうのである。</p> <p>15日は、昼間の踊りで、まず、蔭淵に祀られている神々に踊りを捧げる。タンゴ様には日向踊り、戎様には宮島踊りといったように、神様ごとに、献ずる曲目がほぼ決まっている。踊りは陸を背にし、沖を正面にして踊る。さらに落鼻の沖でも、四八人の平家の落人の霊をなぐさめるために、四八庭（庭とは踊りの回数）の踊りを納める。このときは踊りの数をまちがえないように、一庭ごとに竹筒に刻みをいれ、全部の踊りが終わると、その竹筒に酒をつめて海に流す。そのあとは絶対にふりかえってはいけないという禁忌がある。</p> <p>踊り手は、昭和25、6年（1950年）頃までは、14戸ほどあった網元のオーゴ（網子）が、になっていたが、現在は青年団員が踊る。踊り手8人は右手に1メートルほどの紙垂（紙のフサを竹の両端に飾った棒）を、体の前で、八の字にまわしながら、太鼓・鉦・口説きにあわせて踊る。</p> <p>踊りは宮島踊り・住吉踊り・寺見踊り・花見踊り・新吾踊り・日向踊りの六種をかぞえる。これらの歌章には、豊漁・航海安全を祈願したり、恋の歌をうたい新仏の鎮魂をはかるものが多い。</p> <p>13日の夜がふけるのも忘れて、トントコ、トントコという鉦・太鼓の音にあわせて若者たちが踊り、ひと庭ごとに住民が踊り船に向かって拍手をおくる。新盆の家々では、この踊りで故人への思いを新</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
愛媛県		たにするのである。昭和 51 年（1976 年）11 月に「保存会」が結成された。
大分県	<p>山内流游泳所開所（臼杵市）</p> <p>臼杵市役所生涯学習課臼杵山内流担当 TEL0972-63-1111</p> <p>E-mail : k-hirakawa@city.usuki.oita.jp</p>  <p>URL: http://www2.city.usuki.oita.jp/kyouiku/mamoru/saihakken/amabe/yamautiryuu.htm</p>	<p>臼杵山内流は、江戸時代後期の文政 5 年（1822 年）に、四国松山範の山内久馬勝重が臼杵藩の藩士稲川清記に、新たな泳法として伝えたのが始まりで、以後臼杵藩の代表的な泳法となり、今年 190 周年を迎えた。</p> <p>この山内流は、毎年、臼杵市中津浦の鯉来ヶ浜（けいれいがはま）に 7 月 21 日から 20 日間、游泳所を開き、児童生徒に伝授し、最終日の 8 月 10 日には游泳大会があり、泳法披露が行われている。伝統的な古式泳法・臼杵山内流を大切に後世に継承するため、各種の事業を行っている。</p>
	<p>五丁の市（佐伯市）</p> <p>佐伯市観光協会 TEL : 0972-23-1101</p> <p>E-mail : yuusuke@city.saiki.lg.jp</p> <p>八幡地区公民館 連絡先 : ☎0972-27-8001</p>  <p>URL : http://www.yappa-saiki.sakura.ne.jp/saiki-kankou/raku/cat23/post_73.html</p>	<p>佐伯市戸穴（ひあな）の大宮八幡神社の大祭「五丁の市」は、豊漁と海の安全を祈願する伝統の祭りで、一番の見せ場は佐伯湾内を勇壮に巡る名物のジョーヤラ船である。</p> <p>ジョーヤラ船には祭りの役員や 5 色のたすきを着けた彦陽中学校 2、3 年生が乗り込み、同神社近くの笹良目港を出港する。「漁あれ」のはやし言葉が由来といわれる「ジョーヤラ」「ジョーヤラジャー」の掛け声とともに、櫓（ろ）をこぐ踊りを披露する。色とりどりの大漁旗をひるがえしたジョーヤラ船が湾内の港を回っていくと、それぞれの波止や堤防には大勢の見物客が集い、2 時間余りの航行で祭り会場がある五丁の浜に到着する。</p> <p>午後から「神幸祭」や本殿からお旅所まで子どもみこしや稚児行列、2 日目は五丁の浜相撲場で子ども相撲大会、忠魂碑前での慰霊祭、お旅所で神楽などが奉納され、夕刻 4 時頃の還幸祭をもって幕を閉じる。</p>
	<p>早吸日女神社夏祭り（大分市） （はやすひめじんじゃ）</p> <p>早吸日女神社内事務局 （大分市大字佐賀関 3329 番地） TEL : 097-575-0341</p>	<p>紀元前 667 年、神武天皇の東征の途中、速吸の瀬戸（豊予海峡）にさしかかった際、異変が起こり、船が進まなくなりました。何事であろうと海中をうかがうと、巨大なタコが神剣を抱いているのが見えた。ときに、その様子を知った海女の姉妹、黒砂（いさご）と真砂（まさご）は、海中深く</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
大分県		<p>に潜水し、タコと戦い、ついに神剣を取り上げて天皇に献上した。神剣が取り上げられると、船は元の様子に戻り、航行を再開したが、海女の姉妹はともに絶命したという伝説がある。この神剣を御神体として、神武天皇自ら早吸の神と称し、祓戸（はらへど）の神々を奉斎され建国の大請願をたてたのが早吸日女神社の始まりである。上記のことから、早吸日女神社はたこと深いつながりがあり、現在でも「蛸断祈願（たこたちきがん）」というものがある。</p> <p>これは、絵馬のかわりにたこの絵が描かれた紙を奉納し、一定期間たこを食べずにいると願い事が叶うといわれ、全国的にも非常に珍しい祈願である。また、神社の神職はタコを食べない。早吸日女神社では、毎年7月28～30日に、夏祭りが開かれ、みこしが町をめぐる。また、佐賀関の海土たちが、アワビやサザエなどをお供えする伝統が続いている。</p>
	<p>関の鯛つり唄（大分市）</p> <p>NPO 法人さかのせきまちづくり協議会 TEL : 097-575-2000</p> 	<p>大分市佐賀関は、大分市の東部に位置し、豊後水道を挟んで四国愛媛県の佐多岬を望むことができ、沖合には県天然記念物であるウミネコの栄巣地である高島が浮かび、「関あじ・関さば」ブランドで有名な漁業の盛んな町である。</p> <p>元禄時代の頃から漁師に歌い継がれてきた「関の鯛つり唄」にあわせて、伝統の一本釣り漁の豊漁を願って勇壮な踊りが繰り広げられている。また、「関の鯛つりおどり大会」に先立って、むかしながらの櫓おし舟（和船）で競争する「おし初め大会」が行われている。</p> <p>毎年9月上旬に、佐賀関漁港（県漁協荷さばき施設前）、佐賀関市民センター、ふれあい広場で開催される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鯛神輿入魂式：午前11時～ ・大漁おし初め競技：午後1時～ ・関の鯛つりおどり大会：午後7時～